

地域コミュニティを もっと生かそう！

Utilize More the Local Community!

九州支部長 福田 晃



情報通信技術（ICT）は、金融、行政、教育、運輸、医療など、あらゆる分野の基盤技術になって久しく、最近では六次産業で新たな模索も始まっている。また、我が国でも、重要な国家戦略の柱にもなっている。

本会は、ICTの学術団体の中核的な役割を果たしているが、会員数が増加しないなど、課題も抱えているやに聞いている。また、世界的に見ても、ICT関連の学術団体には、この傾向があるかもしれない。しかしながら、スポーツなどを見ても分かるように、グローバル化あるいは広く日常生活などに浸透すればするほど、母体であったはずの団体が、厳しい状況に置かれることは世の常のように思える。これは、小生が属しているアカデミア分野の大学で言えば、ICTが広く浸透した結果、情報通信系学科の人気の必ずしも芳しくないことにも対応するかと思う。

しかしながら、ICTが更に浸透した今だからこそ、本会の果たすべき役割がますます重要となってきたのではないだろうか。今がチャンスである。

役割の一つとして、地域の活性化への貢献があるのではないだろうか。地域の活性化は、我が国の重要な課題の一つにもなっている。既に、ICTの利活用により、地域を活性化することが多く語られ、実践もされている。また、各地域でもICTを陰に陽に意識した、多くの地域コミュニティが立ち上がり、活動しているかと思う。

小生が本会の支部長を仰せつかっている九州においても、公共団体、企業、アカデミア主導かは、コミュニティごとにその形態は異なるが、複数の産学官連携のコミュニティが立ち上がっている。小生も、微力ながらICT全般、特定の分野（組込みシステム、ITSなど）に特化したコミュニティの立ち上げに協力させて頂き、活動している。また、更に、九州のコミュニティのリエゾンの役割を果たすオール九州コミュニティの立ち上げとその後の運営／活動にも協力させて頂いている。最近では、地域コミュニティの有様も変わり、従来のものから、SNSなどを活用した草の根的なものまで、幅広く存在している。また、コミュニティ分野も、ICTそのものに注力したものや、農業、医療（ヘルスケアなど）、運輸などの特定の分野／産業にICTを利活用しようとするもの（○×ICT、スマート○）など、多種多様なものが存在する。しかしながら、お互いにその存在さえも共有できていないのではないだろうか。ICTの新たな可能性を模索するためにも、多様なベクトルからの観点が必要で、このために、このような地域コミュニティを、もっと活用すべきではないだろうか。

上述したオール九州のコミュニティ内で今年夏に開催された会合でも、団体間・分野間・世代間のネットワークの育成が重要との認識で、活動方針の一つとなった。このような問題認識は、各コミュニティでもあろうかと思う。地域を更に活性化させるためには、一つの手段として地域コミュニティ間の連携を強化することが重要ではないだろうか。そのために、本会はリエゾンの役割を果たすことができるのではないだろうか。

九州支部においては、これまで、多くの諸先輩方の御尽力により、電気関連学会九州支部連合大会の開催、共同セミナー／講習会の開催など、各学会との連携を深め、一定の成果を上げてきた。地域の活性化を更に進めるためには、地域コミュニティとの連携を図っていききたい。無論、「言うはやすく行うは難し」だと認識しているので、まずは、ありきたりではあるが、ホームページでお互いの存在を認識し、問題意識を共有するという、小さな一歩かもしれないが、できることからやっていきたい。